

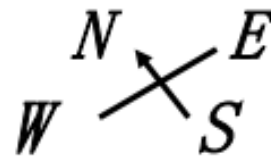
藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

2023年3月1日

第346号

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・環境効果の前に格差も考えたいもの
- ・自然と生きものに親しむ「公園」を考える
- ・辺野古の今 ・大気測定結果
- ・脱炭素社会の実現を目指した庁内体制を

～原発事故から12年～ 子どもたちの闘い

原発事故からほぼ12年が経過した。その間に多くの訴訟が起こった。裁判に訴えたのは、大人ばかりではない。子どもたちも安全な場所で教育を受ける権利を訴えた。

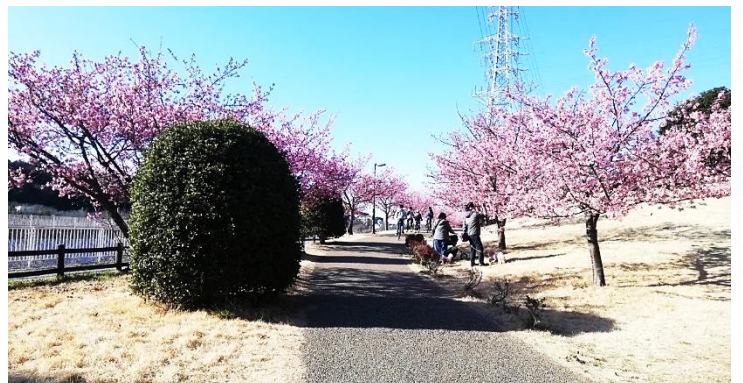
まず、原発事故から3カ月後の2011年6月24日に、福島県郡山市の子ども14人が、年間1ミリシーベルト以下の安全な環境での学校教育を求めて仮処分の申し立てを行った。「ふくしま集団疎開裁判」と呼ばれた。汚染地を出て教育を受ける子どもの権利を認めさせ、集団疎開につなげる裁判だった。だが、2013年4月24日、仙台高裁は申立てを却下。

翌2014年8月29日、今度は、福島に住む親子や県外に避難した福島県民が、2つの裁判から成る「子ども脱被ばく裁判」を福島地方裁判所に起こした。

1つ目は「子ども人権裁判」。原告は公立の小中学生40人。被告は子どもたちが居住する自治体（福島市、川俣町、郡山市、田村市、いわき市）。「子どもたちに被ばくの心配のない環境で教育を受ける権利が保障されていることの確認」を求める裁判である。原告が公立の小中学校を卒業すると資格を失うため、最終的には原告は2人となっていた。この2人の訴えが、2023年2月1日に仙台高裁で棄却された。原告が中学校を卒業するため、この裁判は終わった。つまり、2011年から始まった「子ども裁判」は12年の歳月を経て、終結したことになる。

「子ども脱被ばく裁判」の2つ目の「親子裁判」は「原発事故後、子どもたちに被ばくを避ける措置を怠り、無用な被ばくをさせた責任」を国と福島県に認めさせる裁判。親子160人が原告の「親子裁判」はこれからも続いてゆく。

この他に、2022年1月、甲状腺がんになった子どもたちが原告となって東京電力を訴えた「311子ども甲状腺がん裁判」がある。原告は初め6人だったが、1人増えて7人。原告には、事故当時幼児だった人や小学生だった人もいる。12年を経て、子どもたちは若者になった。若者たちは病気と闘い、裁判でも闘うことを選んだ。その勇気を讃えたい。わかっているだけで、原発事故当時福島県内に住んでいた子どもの甲状腺がん患者は338人である。7人の後ろに331人の若者たちがいる。残念極まりないが、その数は増えることが予想される。(すどうゆりこ)



河津桜 引地川親水公園

脱炭素社会の実現をめざした庁内体制を

「脱炭素社会の実現に向け、2050年までに二酸化炭素排出 実質ゼロをめざす」2030年度に46%削減(2013年度比)を決定し、啓蒙から実行段階に入った。その課題はいつまでに、何を実施するかロードマップの策定である。

当面、環境省の「脱炭素先行地域事業」(2/3 国庫補助)に応募し、4月にその結果が待たれる。これを起爆剤として横展開をめざすためには「何を、いつまでにやるか」脱炭素社会に向けて「地域分散・地産地消の小規模で自立可能な電力網(地域マイクログリッド)の構築(環境省・経産省・国交省などの補助制度活用)」等について、2030年まで、2040年、2050年までのロードマップを作ること。

しかし、藤沢市温暖化対策実行計画の推進体制は問題を抱えている。

(1)2022年までに40%削減目標を実現できなかったときの推進体制のままで、庁内体制の環境政策推進会議の中核担う専門委員(4部長)に企画政策部長が入っていない。
(2)実務を担う環境総務課に発電事業に関する専門職が配置されていないことは致命的な欠陥である(地域の実態を知らないコンサル任せの企画)。

従って、取り組みの進捗管理の実施と体制が回らない。改善するためには、カーボンニュートラルに向けた推進体制の見直しを行い、庁内に専門部署の創設とその司令塔機能が不可欠である。

環境省の自治体向けセミナーでは、気候変動対策として環境部局だけで取り組みでは不十分で、全庁的な総合的体制が不可欠と指摘されている。

実は、人口44万の藤沢市は政令指定都市に次ぐ自治体であり、「中核市」に該当するが総務省への届け出をせず、一般市(人口20万以下)の扱いとなっている。しかし、一般市に位置付けられている限り、藤沢市の現状で限られた職員数で意欲ある行政サービスを求めても限界があると考えられる。

中核市になれば、市民の意見や要望を直接市政に反しやすくなり、きめ細かな市民サービスの提供・迅速化が可能となる。従って、特色ある街づくりや総合的な環境行政・保健衛生(コロナ対策等)サービスの提供ができるようになる。議論を尽くし早急に改善して欲しいと願う。(宮地俊作)



環境効果の前に格差も考えたいもの

市の温暖化対策の補助事業はどうなっているのか興味を持った。「令和4年度地球温暖化対策設備等に関する補助事業について」という市役所のホームページを発見。7つの補助事業をやって2月末で受付が締め切られていた。

① 住宅用太陽光発電システム設置費補助金 1kWあたり15,000円(上限50,000円) 予定件数150件

②事業者用太陽光発電システム設置費補助金

補助対象経費の1/4(上限1,000,000円) 予定件数:3件

③ 家庭用燃料電池システム(エネファーム)設置費補助金 1件50,000円 予定件数:180件

④ 定置用リチウムイオン蓄電池設置費補助金 1件50,000円 予定件数:100件

⑤雨水貯留槽購入費補助金

本体購入金額の1/2(上限15,000円) ※1,000円未満切り捨て 予定件数:30件

⑥電気自動車導入補助金

1台100,000円 予定件数:80件

⑦ 燃料電池自動車導入補助金

1台300,000円 予定件数:5件

少し詳しく書くと、①の太陽光を設置するときにエネファームを同時設置すると5万円加算でエネファームと蓄電池を同時設置した時は10万円加算、⑥の電気自動車を導入する時に太陽光発電システムを同時導入またはすでに稼働状態なら10万円加算、などかなり力を入れていただいたようだ。より詳しくは市のHP検索を。

市民の応募の状況を市に少し聞いてみた。⑥の電気自動車が満杯、⑤の貯留槽は満杯近くだが、①の太陽光が80件程度、③のエネファームが50件程度、④の蓄電池が60件程度、⑦の水素自動車が0、とのこと。環境効果以前に資産や収入の格差が大きく影響したか？

借家住いの人も持てる電気自動車や、数万円でもできる貯水槽が人気で、持家や財政に余裕がある人でないと恩恵になりにくいエネファームや蓄電池、という印象だ。

約700万円の水素自動車は、さらに市内に水素ステーションガースターションではこうなるか。数万円で買える自転車への支援も考えてほしい。収入格差も考えて環境対策を作れば市にミライは来る。(内藤繁)

自然と生き物に親しむ「公園」を考える

自然景観の保全と自然に親しむ機会を提供するため、神奈川県には国立・国定公園各1カ所と4つの県立自然公園があります。藤沢市には江ノ島や片瀬から辻堂に至る海岸など残したい自然景観があり、公園として管理されています。公園には別に「都市公園」があります。そこは人工的な環境ですが、実は身近な生き物に出会う場でもあります。県立境川遊水地公園は多くの野鳥と出会える場でもあり、引地川親水公園もしかりです。新林公園は里山の景観を残し、多くの植物と昆虫に出会えます。大庭城址公園は、人の歴史に出会う場もあり魅力的です。このように藤沢市の公園は、手つかずの原生林が残る場合は望めませんが、市民が楽しく憩える場を提供してくれています。

藤沢からほど近い所に「舞岡公園」と「県立茅ヶ崎里山公園」あります。ともにバードウォッチングの場として有名ですが、昔ながらの田園風景といった趣です。そこが藤沢の公園にはない特徴です。しかも30ヘクタールの広さがあります。藤沢にも新林公園(15ヘクタール)があり、森と谷の湿地もあり多様な生物が生息しています。しかしすでに四方を宅地に囲まれていて拡張はできません。それだけに貴重な公園でもあります。



遠藤笹窪谷(やと)公園(市のHPより)

雑木林と谷戸の公園としては遠藤笹窪谷公園が竣工しました。新たに完成したのは「健康の森」で囲まれた2ヘクタールほどの土地です。整備前、ここはバードウォッチングの場でした。この公園の目的を市は自然環境保全だとしています。ただ公園で目につくのは芝生と人工池の広場です。明るくて気持ちよい場ですが、自然に親しむなら周囲の雑木林との一体化が図れなかったのは残念です。今後どのように管理されるのか、生き物たちがどのように利用するか見守って行きましょう。

(菅谷芳雄)

辺野古の今

11月から毎月辺野古を訪れています。

大浦湾の北側、工事から一番離れている見事な造礁サンゴ群が、いよいよ影響を受け始めているのを感じています。

山を削り、海にその土砂を捨てるという行為、更には沖縄戦戦没者の遺骨が混じる土砂からも採掘するという蛮行…。この国がとても文明国とは言えないことを物語っている。



辺野古への土砂を削る

辺野古ゲート前



それだけではない、民主主義が踏みにじられ、無法行為がはびこり、暴力的な弾圧を行い、そして沖縄の自己決定権ですら奪っている。「基地は人権問題！」であり、辺野古や高江での愚行は沖縄だけの問題ではなく、これが日本の姿なんだ！

気候危機、平和の危機、地球規模での危機がいっぺんに降りかかって来て、皆それどころじゃなくなっている。

だから自分の目で見ることが必要だと思う。

出来ることから行動を！

(環境活動家 武本匡弘)

辺野古土砂投入



大気（NO₂）測定しよう！

藤沢の空気を考える会で、藤沢全域を長年、夏冬（6月と12月）に大気汚染物質・窒素酸化物（NO₂）を簡易測定しています。

2022年12月1日（木）～2日（金）に測定した結果です。コロナ感染症流行中のため、通常より少ない本数で行いました。

2022年12月大気汚染（NO₂）測定
13地区別平均

	件数	平均ppm
片瀬	4	0.022
鵠沼	0	—
辻堂	6	0.045
村岡	3	0.026
藤沢	19	0.053
明治	2	0.272
善行	4	0.032
湘南大庭	16	0.049
六会	20	0.042
湘南台	4	0.033
遠藤	8	0.035
長後	0	—
御所見	7	0.054
藤沢市全域	93	0.049
鎌倉市	10	0.039

市内平均は 0.049ppm できれいとは言えませんが、環境基準（0.04～0.06ppm以下）はクリアしました。以前の環境基準は 0.02ppm 以下でした。きれいだった地区は片瀬地区で 0.022ppm。最も汚染されていた地区は明治地区で、0.272ppm。この測定場所は、城南の国道工事中近くでした。

子ども達のぜん息罹患率はコロナ禍のため現在統計は出していません。ぜん息は車のガソリン、工事中の空気汚染などが考えられます。緑豊かな公園そして街路樹を大事に育て、きれいな空気の中で生活したいものです。

簡易測定は 24 時間、測定管を吊るしておき、回収する簡単な方法なのでできる方が居ましたらご協力お願い致します。

（藤沢の空気を考える会 青柳節子）

ECONET INFORMATION

▲13年目の福島 映画とトーク

講演「ふるさとを返せ」今野秀則さん

・石井ひろみさん 桜井勝延さん

3月11日(土)10:30-16:10 カトリック藤沢教会

主催 NPO こどもたちに未来を in 湘南

連絡先 0466-55-2251(松延)



▲みんなの消費生活展

3/10(金)～20(月)パネル展示 本庁舎ロビー

3/12(日) 書道パフォーマンス

講演会 武本匡弘さん 亀井里美さん

本庁舎 5 階 10:00-14:00

問合せ 市民相談情報課 0466-50-3573

▲なぜ小学校で自治体共催断熱ワークショップ企画を実現できたのか

3月9日（木）20:00～21:00 オンライン

問合せ先：fj.dannetsu@gmail.com

お話し 藤法淑子さん（ふじさわ学校断熱ワークショップ実行委員会代表） 参加費 無料

主催：ゼロエミッションを実現する会

クラウドファンディング実施中



▲平和憲法の碑を作りますか？in 湘南

意見と寄付のお願い募集中

ゆうちょ銀行 店名 098(ゼロキュウハチ)

普通 3131972 湘南平和憲法の碑を建立する会

連絡先 0466-50-0117

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 3月4日(土)10:00-六会公民館

《編集後記》春が近づいて来たが、トルコ、シリアで2月6日に起きた大地震はこの寒空に暖や食料がなく絶する報道に胸が痛い。合わせて5万人が亡くなっている。せめて気持ちをと僅かの募金をした。東日本大震災の3.11から12年、あの時も凄かった。計画停電で暖房器具が使えなかった。被災者は避難所で暮らした。自然災害の恐ろしさを改めて認識し、防災対策をしたい。福島原発事故は人災と思う。(H)

気候危機時計
2023年2月24日現在
このまま何もしなければ

地球温暖化1.5℃上昇まで 残りあと 1.5℃に抑えるために 使えるCO₂の限度

炭素予算
6年と147日 世界 2,704億トン
藤沢 1,499万トン

いつまでに 何を
NGO気候危機アクション藤沢